

## 平成30年度 生計困難者レスキュー事業

受付月	対象者情報	相談内容	支援内容
平成30年5月	40代・男性	現在無職の方で、1ヵ月分の家賃滞納・ガス代滞納、電話代滞納により電話が通じず、借金が数百万円。本人より電話があり、泣きながら「死にたい」との訴えがある。就職ができるまでの間、レスキューで対応してほしい。	訪問を繰り返していくうちに、前職での出来事、家族環境について話をしてくれるようになり、その思い等を話してくれるようになった。次のステップでもある就職に向けて精神的なサポートになりながら、滞納分の支払いのお手伝いを行う。生活保護受給で支援を終了したが、その後も訪問を続け、就労まで見届けさせていただく。
平成30年7月	60代・女性	近隣住民よりアパートはゴミ屋敷、駐車場にたくさん荷物が出されていると相談がある。アパートは強制退去になる。次の住まいが見つかるまで、住まいと食事のレスキュー対応を包括支援センター担当者より依頼。	食事、住居の支援を実施。支援中も、友達を頼り、1日帰ってこない事もあったが、その友達からもクレームが来るようになる。精神疾患も疑われ、最終的にグループホームへ入所することへ繋げるため精神科入院となり、支援終了となる。
平成30年9月	30代・女性、女兒	ご主人からの暴力で家を出てホテルで過ごしている母子がいる。母子保護施設に申込手続きをしているが、時間がかかりそうなので、入所までの間、住まいの提供をしてほしい。	ショートステイの空き室を利用し、居住及び食事の支援を実施。3泊された後に、元主人と再度話し合いをするために、家に戻られ、支援終了となる。
平成30年11月	60代・女性	退職後、派遣などを繋ぎながら生活。派遣業務もムラがあり、仕事も少なく、色々な支払いが重なったため、家賃、水光熱費が払えず、止められる寸前である。年金が入るまでの食事支援と、家賃、水光熱費が止められないようにしてほしい。	親族からの金銭の搾取などもあり、金銭面で不安定となっていたことが判明。今月の家賃の支払いがないと、退居命令が下されることから、家賃の支払いを先行し、食材の支援、水光熱費の滞納分の支払いを実施。包括支援センターに繋ぎ、その後の生活の見守り等も含めて依頼し、支援を終了する。
平成30年12月	30代・女性、男児	主及び主の母親共に精神疾患があり、仕事はしていない。生活保護の申請を今後予定しており、受給までの間支援をして欲しい。	食事やオムツ類の支援を実施。必要な生活用品については、法人職員に声をかけ提供する。提供物品は布団、こたつ、やかん、鍋、その他、子どもの遊具等。生活保護費受給したため支援を終了する。
平成31年3月	80代・女性	収入はある程度あるが、近隣に住む息子に浪費され、自身も認知症の為、金銭管理が出来ず、多数借入あり。次の年金日までの食事が無いので、支援してほしい。	1週間程度の食材の提供を実施。介護保険でヘルパーを利用していることもあり、過剰な贅沢品にならないよう注意しながら食材を選定。年金を受給されたため、支援は終了。